

おぢばへ運ぶ 感謝とおたすけの心



賑わう詰所 約60名が帰参

団参をされた各教会。左上から時計回りに。祝梅、幌都、上富良野、峰延【4月】、志加ノ谷



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
新ホームページ
bariten.com



サイトアドレスを
変更しました

お知らせ

青年会夕張分会総会 6月20日(土)
月次祭 7月15日(金) 9時30分開扉献饌
こどもおぢばがえり 7月28日〜8月2日

教祖を慕う、道の子どもたちの明るい笑い声が、詰所に響く――。

先月に引き続き、5月御本部月次祭にも、夕張に繋がる大勢のようばく、信者がおぢばに帰られた。

同月、祝梅、上富良野、幌都、南幌、志加ノ谷の計5カ所が団参を実施。振り返ると、年祭といえば大教会で団体を組み、大型バスやマイクロで移動することが通例であったが、それも今や昔。近年はタクシー、レンタカーなどを各教会ごとに準備し、おぢば向かう形が主流となり、まさに時代の流れを感じさせる。

また、期間中には初席や中席、さらにはおさづけの理拝戴など、喜ばしい機会にも多く恵まれた。初めておぢばがえりをされた方の中には、神殿に足を踏み入れ、かんなるだいを目の前にし、得も言われぬ感動に包まれたという方も。(帰参者の声は、4頁)

年祭の年という旬に、大教会から示された、「おぢばにかえりましょう」との声。旬の声に呼応する素直な心が大切であるとわかつていながら、年を重ねるにつれて人間思案が積み、一歩踏み出せないことが増えている、そんな気がする。

今年、夕張にとつてまさに「おぢばがえりの旬」であり、そして来年迎える夕張大教会創立130周年は、「おつとめの旬」ではないかと思う。

おぢばを通じ、また大教会を通じて、我々のもとに届けられる親の思召し。それらを素直に受け、一手一つに通ることができれば、必ずや教祖はお喜び下さり、この世をまた一歩陽気ぐらしへと導いて下さる。そう信じられる心を、信仰で育みたい。(岩佐善昭)

先回りの御守護に感謝して――

五月月次祭の様様



新緑の5月、道内は心地の良い日が続き、陽光をいっぱい浴びた草花がそこかしこに咲き、目にも綺麗な季節となった。前日の14日には婦人会の委員長講習会が開催され、かんろだいつとめについて講義を聞いたり、揃ってひのきしんをしたりと、有意義な時間を過ごした(別項にて詳細)。迎えた15日祭典の朝は少し冷え込み、ストーブをつける程であったが、中にはグングンと気温が上がりが、かえって汗ばむような陽気となった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。

講話に先立ち、新任教会長の紹介があり、清真布分教会の渡部修太新会長が大会会長に紹介され、激励の拍手が沸き起こった。

講話には藤崎実役員が立ち、「1月26日は、教祖140年祭でした。その次の日の神殿当番で、12年務めさせて頂いた本部詰員を終わらせていただきました。一緒に当番



渡部修太新会長(写真左)の紹介

をしていた方で、本芝の先生がいらっしゃいました。夕張の前会長さんと同級生で、奇しくも前会長さんと同じ病気、大動脈解離で出直された方でした。その先生が『藤崎君、本部内をぐるぐる歩いて、おさづけを取り次がなきや駄目だよ』と言っています。ところが、神殿や回廊で声を掛けても、『今していただいたばかりです』とか断られ、なかなか出来ないんです。

それなら、と、おはようございます、ご苦勞様です、ようこそお帰りくださいました、と声掛けをして回ろうと思いましたが、まず実行しようとしたら、外人さんだったんですよ。1人ぐらいなら適当な英語で、と思つて声をかけたら、日本語堪能ですからって。その人振り返ったらね、5人連れてきたんですよ。6人の外国人を、かんろだいのところからご案内

ももらいました。『神殿の目の前でおいかかって、という方もたくさんおられるから、そういうことに気付ける詰員になりなさいよ』と、その先生から聞かされていました。

そのように、神殿でお助け、ということも思っていたんです。ここ最近、南礼拝場の結界の一番前の席で参拝していました。26日の一番前にいるような人たちは、毎月来る常連さんなんですよ。一番前に座つて居る方は、創一郎先生のペンフレンド。その隣には、うちの弟の、大学の後輩の奥さんがいつも座つて居るんです。その横には、前会長さんの修養科の教え子が、毎月千葉から帰つてきて、座つて居るんですよ。工藤さんって言うんです。工藤さんって言うんです。この方が昨年夏ぐらいいに、調子が悪いと言って、十二下りが終わった後、調子悪そうにしていて、『先生お

させてもらいました。その香港の人が英語で喋つてくれるから、私はずっと日本語でいい。こういうこともあるんだ、と味を占めましてね。何人か神殿案内をさせてもらいました。『神殿の目の前ですわ。』って、呂律が回らないんですよ。こういう時は動かない方がいいからね、落ち着いてって言って。南の結界の一番前の中心で、そこでおさづけを取り次がせてもらいました。そうしたら、ちよつと楽になりました。したって言って、帰っていきました。

その次の月、また十二下りが終わる頃、いつも工藤さんの横に、飛驒から来る中背部内の会長さんが座つておられるんですよ。この先生が『腰痛くて駄目だから、先生おさづけ取り次いでください』と言っていますよ。2ヶ月連続だな、と思いつながら取り次ぎました。スツとしたから帰ります、って立ち上がったんですよ。飛驒に帰る前に大教会に寄つて帰りますって、歩いて帰られたんです。

うのね。4日目に息子が車で迎えに来てくれて帰ったんですが、息子が、こんな時だから内臓も見てもらったらどうだ、って言うから調べたら、心臓が悪いから腰が痛かった、というのが分かったんです。心臓の手術をして3ヶ月入院して、リハビリを続けたので、1月26日にやっと参拝できた、との事でした。

工藤さんも、中背の方も、次の月から南礼拝場に来なくなつたんですよ。どうしたのかな、とか思いながら待つたら、1月26日の参拝に来たんですよ。工藤さんは、帰つてお医者さんに見てもらつたら、脳梗塞を起こしてました、でもこうやって参拝できるぐらい、歩いてこれますし後遺症も残ってなくて、ありがたいです、と。

お医者さんが言うには、心臓から来る腰痛だったんだけど、天理からまっすぐ飛驒に帰ってきたとしたら、途中で倒れてたかもしれないですよ、と。だから腰が痛かったことに感謝しなさいってお医者さんに言われたんです。やっぱり神様っていうのは、先回りの御守護をされて、私たちをお導きくださる、というのが分かりました、と。腰が痛いばかり思つたけども、神様からのお知らせだったんだ、というのを、お医者さんに教えてもらったわけですね。

その先生が言うには、『いまのちいかなみちでもなげくなよさきのほんみちのしゆでいよ(三36)』というおふでさきがあります。が、今あることを喜ばなきゃダメなんだなど。続くおうたに『しんぢつにたすけ一ぢよの心ならなにゆいでもしかとうけとる(三38)』とあり、私たちが運んだ真実というの、必ずその理を受け取ってくださいって、この積んだお徳に

そう言うたら、飛驒の先生も一番前に来たんですよ。あ、その後、中背大教会に行つたら、動けなくて4日も大教会で寝てた、って

さづけ取り次いでください』って。呂律が回らないんですよ。こういう時は動かない方がいいからね、落ち着いてって言って。南の結界の一番前の中心で、そこでおさづけを取り次がせてもらいました。そうしたら、ちよつと楽になりました。したって言って、帰っていきました。

(次ページ中段へ続く)

委員部長講習会開催【婦人会】

5月14日、婦人は通常の例会に代えて、年に一度の夕張支部委員部長講習会を開催させて頂きました。

今年は婦人会本部の活動方針が改まり、「かぐらづとめ

の大切さを学び、人に伝える努力をして、誠真実の心でお

つとめを勤める人を増やして行く事」が提唱されました。

講師には詰所主任・藤崎実先生をお迎えし、約1時間「つ

とめ人衆」の配置やお面の特徴から、おつとめの手を揃え

る心構えまで、興味深く面白くお話を聞かせて頂きました。

また、本会の成人目標と活動方針についても改めて学び、

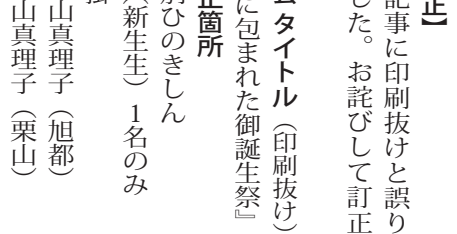
気持ちを新たに致しました。

終わりに参加者全員で神殿、客殿内外のひのきしんをし

て閉会致しました。

ご参加頂いた23名の会員の皆様、誠にありがとうございました。

(藤田美由紀支部長)



藤崎実先生による勉強会



開始前のおつとめ

新たな門出、先を楽しみに 会長就任奉告祭【清真布】

初夏の青空が広がった5月30日、栗沢の清真布分教会で会長就任奉告祭が執り行われた。新任を祝つて、大教会長夫妻、前奥様、南空知支部長、来賓、大勢の教友、町内の方々が参集下して、勇んだおつとめが勤められた。



勇んだおつとめが勤められた

が催された。雅楽が堪能な新会長の友人が、遠く四国、関西からも応援に来て、舞楽を披露して、盛り上がった。

(藤崎実)

沿ったような御守護をちゃんとかださるんだ、というのを信じて通らしてもらいます、と先生は仰つてました」と語った。

大教会長はいさつで「4月は多くの方におおぼへお帰り頂きました。私共直轄や前奥さんが会長を務める札美からも初席者、また思いがけない中席者も御守護頂き、ありがたい事でした。

4月20日夜に前奥さんが肺炎などで入院することとなり、憩の家で療養されました。団参のお疲れがあった事でしょう。私はおおぼへを何度か往復することになりました。

(藤崎勇)



5月本部廻廊ひのきしん

【お詫びと訂正】

先月号の記事に印刷抜けと誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

婦人会総会タイトル(印刷抜け)

『笑顔と喜びに包まれた御誕生祭』

庶務部訂正箇所

婦人会特別ひのきしん

梶川雅代(新生会) 1名のみ

▽詰所教養掛

(誤) 6月 富山真理子(旭都)

(正) 6月 富山真理子(栗山)

庶務部 5月

▽おさづけの理拝戴	5	5	26	25
木村 稔之(祝梅)	5	5	26	25
▽初席				
布川 琢也(上富良野)	5	5	23	23
布川 智乙(上富良野)	5	5	23	23
清水 悠希(幌向)	5	5	25	25
木村 洋子(本三川)	5	5	25	25
乾 さくら(南幌)	5	5	26	26
乾 はな(南幌)	5	5	26	26
▽みちのだい育み塾講習会	5	5	29	26
竹田 愛子(馬追)	5	5	29	26
▽をまもり 1件				
▽詰所当番				
6月 富山真理子(栗山)	7/23	7/23	8/2	8/2
7月 齊藤 智明(南幌)	7/23	7/23	8/2	8/2
1日 たすけ推進会議 役員会議				
3日 会長、上富良野巡教				
4日 岩見沢組・組例会				
5日 会長、新生会巡教				
6日 会長、葬儀(7日)				
8日 会長、おちばへ				
10日 会長、前夫人帰会				
14日 月次祭準備				
15日 月次祭				
17日 会長、夕喜元巡教				
18日 会長、栗山巡教				
19日 会長夫妻、札美月次祭				
23日 会長、おちばへ				
24日 会長、本部神職当番				
25日 夫人、おちばへ				
26日 本部月次祭、遙拜式				
27日 会長、かなめ会				
28日 夫人、婦人会本部例会				
29日 夫人、帰会				
30日 会長、帰会				

はじめてのおぢばがえり、震えた。
先祖代々、また私自身の一切の感謝御礼、陽気暮らし世界建設の決意をお参りさせていただく。別席も4回まで運ぶ。

個人的に宗教と宗教団体は分けて考える。一般に宗教だとイメージされるものは宗教団体の方では。宗教とは単純に元の教えで宇宙のはじめから不変の法則、生活そのものでは。ゆえに全ての人には宗教を避けて通れない。そして、この教えは科学の進歩などで、これからその深さを明かし続ける。大変な教えを賜った。おやさまをお手本に実践を積み重ねていただき、その凄さ、深さを体得し、喜びをもって周りの方々にもどんどんおすそわけさせていただきたい。

この教団は、元の教えをいち早く率先垂範していくお役目、またそれに向かって精進を続ける素敵な人々。今、本当に必要であり、これから重要度はさらに増していくと確信する。今こそ自分も立ち上がるしかない。姿をもって感化していけるよう、精進させていただきます。

清水悠希 (幌向)

帰参者の声

おぢばがえりをされた各教会のみなさまに感想をいただきました

2年前の5月。初めてのおぢばがえりで、当時の詰所主任、藤田好道先生の言葉に涙しました。

私は、両親を早く亡くし、帰る場所が無いと思っていました。でも藤田先生が、いつでもここに帰ってきてても良いという言葉聞いて、「え～、私はいつでもこの場所に帰って来ても良いんだ～」と、すこく心に響いて、うれしくて、あたたかい場所だと感激、涙！ 亡き義父、義母、義兄への思いなどを心に秘めて……。

そして、今回二回目のおぢばがえりをさせて頂き、改めて詰所での皆様の優しさ、あたたかさを感じる事が出来ました。神殿の作り、美しさに、また感動。

さらには、今回はじめて、義姉と一緒におぢばにかえることができ、本当に楽しくて、嬉しかった。今回一緒に帰ってくれたみなさんにも感謝します。

志加ノ谷分教会長様、色々とお世話になり、本当に感謝申し上げます。

本当に楽しさいっぱいのおぢばがえりでした。

渡邊明子 (志加ノ谷)

佐藤憲治さん・輝子さんご夫妻は、長女、次女、次女のご主人、さらにそのご主人の弟さんを加えた総勢6名で帰参され、次女は中席を、ご兄弟は初席を運ばれた。また、弟さんは法被(はっぴ)の収集を趣味としており、数年前に天理教とは縁のない中で、ふしん社にて「天理教」とだけ記された法被を購入されていた。今回、その文字のかすれが気になっていたこともあり、せつかくの機会ということで、「上富良野分教会」の文字を入れた法被へとリメイクされた。憲治さんは、130年祭以来10年ぶりのおぢばがえりを心から堪能した様子であった。

佐藤大輔 (上富良野)

5月23日から26日にかけて、幌都分教会より計9名がおぢばへ帰参した。

24日には伊勢神宮への観光も行われ、車のルート間違い、迷子発生、痛風のアクシデントに見舞われながらも、厳かな空気に触れ、和やかに観光を通じた交流の時間が持たれた。その日の晩には詰所にて全員での会食が行われ、十数年ぶりにおぢばへ帰られた方や初帰参の方も交えて、久しぶりの再会を喜びあい、帰参の昔話などで、賑やかな夕べとなった。

25日は別席日、26日参拝後にはおぢばを出発、笑顔の絶えない喜びのおぢばがえりとなった。

藤田豊 (幌都)

この度、無事におさづけの理を拝戴することができ、身の引き締る思いと、深い感謝の念でいっぱいです。別席を通じて学んだ教えを胸に、今後は身近な人の身上、事情の悩みに寄り添い、少しでもたすけの取次ができるように、日々のおつとめと、つすけあいに励んでいきたいと思えます。

初席から9席目を終えるまで、いろいろな事があり、コロナ、仕事関係で10年かかりました。

おぢばがえりの度、教会の方々、いろんな人のたすけでおさづけまでこられました。

おぢばがえりの際の、「おかえり」の言葉が心を癒してくれました。ふるさとに帰った気持ちにさせてくれました。あたたかい言葉に、本当に感謝です。

おさづけの理を授かり、一步踏み出しました。教祖どんな時も私たちを導いて下さる温かさを改めて実感しています。これからは、いただいた『おさづき』を心の鏡とし、親神様への感謝を忘れず、陽気ぐらしの世界を広げるため、実践していきたいと思えます。

木村稔之 (祝梅)